

実証実験の進め方について（案）

1. 実験対象業務の選定

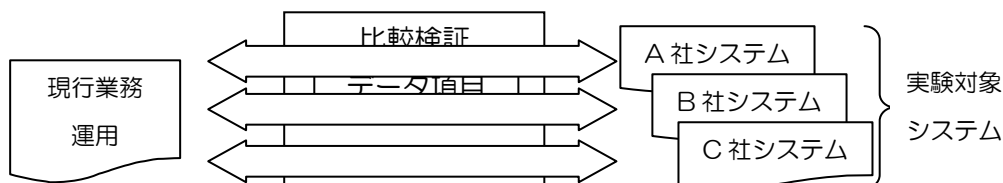
市町村のいわゆる基幹業務及び情報業務（内部事務）のうちから選定する。実証実験参加市町村の現状に基づき、実験効果の高いと思われる業務が望ましい。

2. 対象業務に係る必要機能の確認

対象業務ごとに根拠法及び既存システムの現状を踏まえ必要となる機能の洗い出しを行う。

3. 業務の事前検証

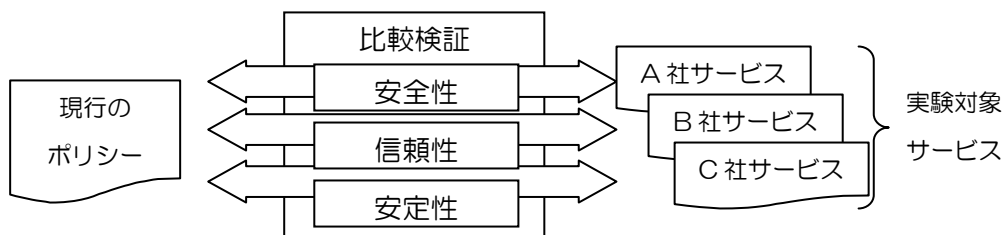
必要機能ごとに取扱うデータの項目及び当該データ項目に係る処理機能について参加市町村の現行業務運用と実験対象システム（クラウドサービスとして提供されるもの）を比較し、事前検証を行う（詳細は別紙「事前検証調査票 業務」を参照）。



4. ITリスク管理の事前検証

対象業務に係るデータベース及びアプリケーションサーバの所在の変更に伴うITリスク管理に係る参加市町村の現行のポリシーとサービス提供事業者のサービスを比較し、事前検証を行う（詳細は別紙「事前検証調査票 ITリスク管理」を参照）。

- データセンターにおけるセキュリティ等
- 庁内LANに係るセキュリティ等
- データセンター・市役所内におけるネットワークに係るセキュリティ等



5. フィールド実験による検証

前述の項番1～4までの事前検証を踏まえ、実証実験参加市町村において実機での検証を行う。

- ※1. 前述の項番3、4の事前検証のための調査票様式作成及び入力作業は、オンライン上のクラウド環境で行う（原則としてオープン）。
- ※2. 仮想化技術による共同運用や、いわゆるマルチテナントによる総合運用（アプリケーションまで共用、アプリケーションの処理ロジックで各市町村を区別するもの）の検討を行うこと。
- ※3. フィールド実験の実施に当たっては、複数のベンダによるパッケージソフトを組み合わせた場合の「相性問題」の検証を行うこと。

事前検証イメージ

業務名称	項番	データ項目 処理機能		
住民税	B-2	区分 1	区分 2	区分 3
		当初課税 (バッチ)	申告情報入力	住民番号ダブリ・論 理チェック
①-1 具体的に異なる点 (自治体記載)				
<p>【回答欄】</p> <p>課税資料の名寄せにおいて、カナ氏名、生年月日等の突合とは別に、カナ氏名を静音化した状態での再突合を行い、候補者リストを出力する機能が無いので追加が必要である。 静音化対象は、①静音濁音、②静音半濁音、③長音、④同音異字、⑤促音。</p>				
①-2 ①-1 の機能が必要な理由 (自治体記載)				
<p>【回答欄】</p> <p>アンマッチ分に対する目視確認、手作業による突合結果の入力が必要となり、事務作業量の増加につながる。</p>				
② パッケージの内容として採用していない理由 (ベンダ) 記載				
<p>【回答欄】</p> <p>パッケージ標準の突合機能は、カナ氏名、生年月日での完全一致の他に、前年度の突合情報 (年金受給者など) を引き継ぐことで突合精度を確保しており、効果が得られない。 また、再突合も行っても結果を目視確認する作業は必要 (余計なデータがマッチしてしまう) であり、作業量の大幅な削減には繋がらない。</p>				
パッケージにカスタマイズする場合の費用				4 (百万円)
①と②の比較				

事前検証のための調査票Ⅰデータ項目（業務：住民税）

業務	機能区分		データ項目	項番	自治体チェック (一致しているか)
	機能区分1	機能区分2			
		申告書入力	個人番号	A-1	
			生年月日	A-2	
			納税者番号	A-3	
			氏名(カナ)	A-4	
			各種所得・控除額	A-5	
			雑損控除額	A-6	
			医療費控除額	A-7	
			社会保険料控除額	A-8	
			小規模企業共済等掛金控除額	A-9	
			生命保険料控除額(所得税)	A-10	
			特別控除条文	A-11	
			個人年金保険料支払額	A-12	
			地震/損害保険料控除額(所得税)	A-13	
			長期損害保険料支払額	A-14	
			寄付金控除額(所得税)	A-15	
			寄付金控除額(住民税)	A-16	
			住宅取得特別控除額	A-17	
			繰越損失額(純損失)	A-18	
			繰越損失額(雑損失)	A-19	
			配偶者専従者区分	A-20	
			その他専従者人数	A-21	
			専従者給与額合計	A-22	
			本人青色申告区分	A-23	
			配当所得区分	A-24	
			申告所得税額	A-25	
			配偶者控除の対象となる配偶者の有無	A-26	
			夫あり区分	A-27	
			同居老人扶養人数	A-28	
			老人扶養人数	A-29	
			特定扶養人数	A-30	
			年少扶養人数	A-31	
			その他扶養人数	A-32	
			同居特別障害者扶養人数	A-33	
			特別障害者扶養人数	A-34	
			普通障害者扶養人数	A-35	
			老年者区分	A-36	
			未成年区分	A-37	
			本人障害者区分	A-38	
			寡婦または寡夫区分	A-39	
			勤労学生区分	A-40	
			本人専従者区分	A-41	
			定率控除額	A-42	
			配偶者特別控除区分	A-43	
			配偶者合計所得金額	A-44	
			家屋敷区分	A-45	
			証明書発行停止区分	A-46	
			申告書送付区分	A-47	
			本人徴収希望区分	A-48	
			特別控除なし区分	A-49	
			未成年課税区分	A-50	
			特定支出控除額	A-51	
			所得控除合計額	A-52	
			均等割課税区分	A-53	
住民税	資料入力(オンライン)	給与支払報告書入力	個人番号	B-1	
			生年月日	B-2	
			氏名(カナ)	B-3	
			受給者番号	B-4	
			給与収入	B-5	
			所得控除合計額	B-6	
			源泉徴収税額	B-7	
			配偶者控除の対象となる配偶者の有無	B-8	
			配偶者特別控除額	B-9	
			特定扶養人数	B-10	
			同居老人扶養人数	B-11	
			老人扶養人数	B-12	
			年少扶養人数	B-13	
			その他扶養人数	B-14	
			同居特別障害者扶養人数	B-15	
			特別障害者扶養人数	B-16	
			普通障害者扶養人数	B-17	
			社会保険料控除額	B-18	
			小規模企業共済等掛金控除額	B-19	
			生命保険料控除額(所得税)	B-20	
地震/損害保険料控除額(所得税)	B-21				
住宅取得特別控除額	B-22				
配偶者合計所得金額	B-23				
個人年金保険料支払額	B-24				
長期損害保険料支払額	B-25				
前職分給与支払額	B-26				
前職分社会保険料支払額	B-27				
夫あり区分	B-28				
未成年区分	B-29				
乙欄適用区分	B-30				
本人障害者区分	B-31				
老年者区分	B-32				

事前検証のための調査票Ⅰデータ項目（業務：住民税）

業務	機能区分		データ項目	項番	自治体チェック (一致しているか)		
	機能区分1	機能区分2					
			寡婦または寡夫区分	B-33			
			勤労学生区分	B-34			
			本人専従者区分	B-35			
			死亡退職区分	B-36			
			災害者区分	B-37			
			外国人区分	B-38			
			就職・退職区分	B-39			
			就職・退職年月日	B-40			
			年末調整済み区分	B-41			
			均等割課税区分	B-42			
			普通徴収・特別徴収区分	B-43			
			報告書区分コードと事業所の指定番号	B-44			
			年金支払報告書入力		個人番号	C-1	
					生年月日	C-2	
					氏名(カナ)	C-3	
					年金収入	C-4	
					社会保険料控除額	C-5	
	源泉徴収税額	C-6					
	本人障害者区分	C-7					
	老年者区分	C-8					
	均等割課税区分	C-9					
	配偶者控除の対象となる配偶者の有無	C-10					
	特定扶養人数	C-11					
	老人扶養人数	C-12					
	年少扶養人数	C-13					
	その他扶養人数	C-14					
	特別障害者扶養人数	C-15					
	普通障害者扶養人数	C-16					
	報告書区分コードと事業所の指定番号	C-17					
	扶養専従者情報入力		個人番号	D-1			
			区分(「扶養者」、「配偶者」「その他」)	D-2			
			専従者控除額	D-3			

事前検証のための調査票Ⅱ 処理機能（業務：住民税）

業務	機能区分			機能説明	項番	自治体チェック (一致しているか)
	機能区分1	機能区分2	機能区分3			
住民税	課税準備 (バッチ)	準備入力	年度切替	前年度の特徴義務者情報より課税実績のある事業所を対象に本年度分の情報を作成する。	A-1	
			特徴事業所更新	新規特徴事業所をオンラインから登録する。 総括表要否、納入書要否の情報を登録する。	A-2	
			住民台帳出力	1月1日（賦課期日）時点の住民情報を作成する。 また、住民記録の情報より配偶者情報を自動設定する。 自動設定できない対象者については世帯主不明者リスト、夫婦不明者リストを出力し、オンラインで訂正する。	A-3	
			定数・定率更新	新年度用の課税計算で使用使用する定数、定率情報を作成する。	A-4	
		調査表出力	総括表出力	特徴事業所に対し総括表、総括表一覧を作成する。	A-5	
			申告書出力	本年申告書送付対象者に送付する申告書を作成する。	A-6	
	当初課税 (バッチ)	申告情報入力	所得・控除入力	給与支払報告書、年金支払報告書、確定申告書をバッチ入力する。 磁気媒体の課税資料（給報FD、給報MT、eLTAX）の取込みを行う。	B-1	
			住民番号ダブリ・論理チェック	各種課税資料の自動名寄せを行い、課税情報の論理チェックを行う。 個人特定できなかった対象者についてリストに出力しオンラインから個人特定を行う。	B-2	
			確認リスト出力	転入者・転出者等、賦課期日時点で住民でない対象者の課税資料について、他市回送用の通知書を出力する。 申告内容に誤りがある資料について資料確認一覧を出力しオンラインから申告内容の訂正を行う。	B-3	
		税額計算	合算処理	個人毎に課税資料を突合せし、本年度の賦課情報を作成する。	B-4	
			合算確認リスト出力	自動合算できない対象者について、合算確認リストを出力する。 リストに出力された対象者についてオンラインから課税情報を訂正する。	B-5	
			課税計算	①申告情報、前年実績より本年度の徴収区分を自動設定する。 ②特徴税額、普徴税額の計算を行う。年金受給者については年金特徴の計算を行う。 ③配偶者、被扶養者の所得情報より配偶者控除、扶養控除のチェックを行う。	B-6	
		特徴・普徴帳票出力	納税通知書出力 (普通徴収)	普通徴収の納税義務者に納税通知書、納付書の出力を行う。 (郵便振替用紙の出力も可能)	B-7	
納税通知書出力 (特別徴収)	特徴事業所に対し税額通知書、納入書の出力を行う。 また、媒体で報告する事業所に対し、税額通知書のMT、FD出力を行う。		B-8			
調定表出力	調定集計表を出力する。(特徴分、普徴分、全体分)		B-9			
課税台帳出力	特別徴収者及び普通徴収者単位に年税額などの賦課情報を出力する。(税制課の控え)		B-10			
	調定表CSVデータ作成	パラメータにより抽出データを指定し、該当のCSVデータを作成する。	B-11			
	郵便振替出力	普通徴収納税者単位に年税額・期割税額等の賦課情報を出力する。	B-12			
	当初納入書出力	特別徴収納税者単位に年税額等の賦課情報を出力する。	B-13			

事前検証のための調査票Ⅲ (ITリスク管理)

分類	運用要件		運用内容	項番	自治体チェック (一致しているか)
	区分1	区分2			
データセンタ	安定性	サービス時間	365日24時間	A-1-1	
		ヘルプデスクサポート	平日8:00~20:00	A-1-2	
		稼働率	99%以上	A-1-3	
		災害時の縮退運転	証発行業務の縮退運転可能 (バックアップデータを庁内に転送)	A-1-4	
	安全性	利用者認証度	ID+パスワード+上位の認証方法 (デジタル証明書)	A-2-1	
		データの完全性保証度	データバックアップ+原本性確保+媒体遠隔地保存(オンライン、郵送)	A-2-2	
		データリカバリ	障害前日トランザクションまで復旧	A-2-3	
		不正アクセス、使用の監視	入退出レベル+ネットワークレベル+アプリケーションレベルでのログ管理	A-2-4	
	信頼性	オンライン応答時間遵守率	5秒以下の遵守率80%以上	A-3-1	
		バッチ処理時間遵守率	99%以上	A-3-2	
		単位時間あたりの最大処理件数遵守率	99%以上	A-3-3	
		大量印刷レスポンス	印刷後、半日以内に郵送	A-3-4	
	ヘルプデスク 作業品質	再コール比率	全要求件数の5%未満	A-4-1	
		基準時間完了率	全要求件数の90%以上	A-4-2	
		応答時間遵守率	30秒以内90%以上	A-4-3	
	庁内LAN	安全性	情報漏えい	シンクライアントの利用による情報漏えい防止	B-1-1
セキュリティポリシーの見直し			庁内LANのネットワーク見直しにおけるセキュリティポリシー見直し (新たなネットワークへの接続、業務系LANの外部ネットワーク接続)	B-1-2	
庁内側システムとの連携			クラウドセンターと庁内側システムとのデータ連携管理	B-1-3	
各種データの管理			縮退運転用データ、未移行データの情報セキュリティマネジメントの実施	B-1-4	
データセンタ・市 町村間のネット ワーク	安定性	回線の予備の設置	回線の二重化	C-1-1	
	安全性	不正アクセス監視	不正アクセスのログ分析、アクセス行為の挙動監視	C-2-1	
		情報漏えい	暗号化、暗号鍵のセッション毎管理	C-2-2	